

集落協定 かわら版 (第25号)

(平成20年11月26日 山口県農業経営課)

萩市麻生・三戸原集落協定

面積 田/急傾斜 8.8ha

緩傾斜 42.7ha

参加者 38人

交付金 598万円

山陽小野田消費者の会

会長：名和田伴江、会員：約120名

会員のほとんどは、非農家の方々に、主な取組のひとつとして、毎年、県内の農産物の生産地に出かけ、農業体験や意見交換をとおして、地産地消を推進する活動を行っています。



交流活動が盛んな 協定集落を訪ねました。

・・萩市麻生・三戸原(あそうみとばら)集落・・・

山口県中山間地域等直接支払検討会委員である山口県地域消費者団体連絡協議会副会長の名和田伴江さんと、今回、消費者団体として初めて参加された山陽小野田消費者の会山陽支部のメンバーが訪ねられ、中山間地域の現状や、農道・水路保全の共同活動などの協定活動についての話を聞きました。

今回は、集落協定による農業生産活動を持続するための前向きな取組によって多面的機能の維持・増進が図られているなど、中山間地域等直接支払制度が、

中山間地域において果たしている役割について消費者に理解を深めてもらうことと、都市住民の人達との意見交換を集落で行う交流などの取組に役立ててもらうために、協定集落の人と消費者の意見交換会を開催しました。

対応していただいたのは、協定代表の中尾智さん(61歳)と協定役員であり、この地域の農地を集積している農事組合法人むつみの代表である山田和男さん(50歳)です。そして、その集落を訪れたのは、山陽小野田消費者の会山陽支部のメンバー10名の方々にしました。

まず、萩市むつみ総合事務所の2階にあるむつみ農村環境改善センターで、萩市の津田主任が地域の概要について説明を行った後、山田さんがパワーポイントを使って、協定活動について説明を行いました。

麻生・三戸原集落協定での活動概要
麻生・三戸原集落協定を締結している麻生集落、三戸原集落に殿川集落を加え

た3集落の農業者で、農事組合法人むつみを平成18年に設立し、3集落内のほとんどの農地の農業生産活動は、法人が行っています。

農地保全に係る協定活動として、21歳～85歳までの協定参加者全員で、農道・水路の管理、ため池周辺の草刈りを行っています。山の中にある田んぼは、法面も高く、夏場は、雑草との戦いで、草刈りが大変だということです。

また、急勾配にある舗装されていない農道は、激しい雨が降ると、雨水で削られるということで、そのたびに農道を補修することも手間がかかるので、計画的に舗装しているということです。

また、農業生産活動以外に、色々な交流活動が行われています。

平成12年から復活した盆踊り、同じく平成12年から始めたコスモス祭り（この取組は平成17年から収穫祭に発展しました）、平成13年から始めたあじさい祭り、それに平成19年には、市民農園も開設するなど、盛りだくさんの内容に、消費者の会のメンバーもびっくりしておられました。



（意見交換会の様子：説明者山田さん）

パワーポイントでの説明の後、参加者全員でフリートーキングを行いました。

意見交換の内容

集落に関すること

Q：集落に若い人は、いるんですか。

A：あまり、いません。成人した多数の子供達は、旧萩市や山口市に住んでいます。

Q：集落の課題は、何ですか。

A：高齢化が進んでいることです。そのような状況で、特に急傾斜地にある田んぼを高齢者が維持管理するのは困難な状態です。それを解消することも、法人設立の理由のひとつです。

Q：農事組合法人とは。

A：個人ではなく、みんなで農業生産活動を行っている会社と思ったらよいと思います。農作業した人には、賃金がでます。



（共同での水路の掃除の様子）

イベントに関すること

Q：イベントの日時は決まっていますか。

A：あじさい祭りは6月第4週の日曜日
盆踊りは8月13日、収穫祭は11月中旬です。

Q：あじさい祭りなどのイベントの目的は。

A：むつみ地域の空気のおいしさや、そこで作られたお米のおいしさ等、直接、地域を訪ねてもらって、実感してもらいたいと考えています。あじ

さい祭りでは、綺麗に咲いたあじさいも観賞してもらいます。

Q：イベントで気をつけていることは。

A：お客さんと食事する時には、スタッフは、一箇所に集まらず、積極的にお客さんの間に入っていき、もてなすことにしています。お客さんと親睦を深めた上で、地元産の米や肉（スタッフの中に豚を飼っている人がいます）、野菜等のPRをするようにしています。

Q：参加費を集めるのですか。

A：参加費を払った方が、気兼ねなく来れるという意見も確かにありますが、今は、招待という形をとっています。来てくださる方は、志を包んでくれますので、あじさい祭りで直支の交付金を使うのは、10万円程度です。ただ、今までのやり方でいくか、参加費をもらうかは、今後の検討課題です。

Q：イベントでお米を買うことができますか。

A：できます。ただ、イベントで米の販売を伸ばそうとは思っていません。

Q：トイレの準備は。

A：近くの公会堂のトイレを利用しています。

Q：イベントへの小学生等の参加は。

（山陽小野田では、幼稚園や小学校の児童達が七草を採取し七草がゆを食べるところがあります）

A：小学校に農園があり、20数年前から田植えなどを行っています。地域内に特別養護老人ホームがあり、その入居者もバスで来られます。そ

のため、特養の研修生が、イベント前の草刈りなどの手伝いに来てくれます。

Q：県庁のホームページにイベント情報として掲載する等、インターネットでPRしたら、もっとたくさんの方が来てくれるのでは。

A：たくさんの方が来てくれるのは、うれしいことですが、受け入れに無理が生じる可能性があります。この取組は、直支の協定活動が徐々に大きくなって来たのですが、みんなができる範囲でやっていこうと思っています。



（あじさい祭りの様子）

意見交換会を終えての消費者の会の皆さんの感想

「中山間地域の実情と、農地管理の大変さが、わかりました。」

「手作りのイベントならではの、暖かさを感じました。イベントへ来てみたと思いました。」

「リーダーの存在の大きさを感じました。」

中尾さん、山田さんの感想

「山陽小野田市の周辺にも中山間地域があるとは思いますが、むつみ地域のような都市部から離れた、真の中山間地域の実情や、そこで工夫し

ながら何とかがんばっている、私達の姿を伝えることができ、よかったですと思います。」



(前列左から中尾さん、山田さん、名和田委員と消費者の会の皆さん)

意見交換会の後、むつみ地域で棚田が連なる佐波木地区に立ち寄りしました。

綺麗に手入れされている棚田を眺めながら、「1枚の田んぼが荒れると病害虫の発生源となり、それが原因で荒廃が進んでいく」ことや「まとめて管理されることで、その多面的機能が発揮される」等の説明を受けた消費者の会の皆さんは、その管理の大切さ、大変さを再認識されたみたいです。

棚田の下に流れる川の両側に、さらに水田が連なり、その先の千石台につながる景色は、決して荒らすことなく未来へつなげなければならないものだと全員が感じられたことでしょう。

~~~~~ 編集後記 ~~~~~

工夫した交流によって、中山間地域の良さと大切さを伝えている事例を紹介しました。

徳永

県農業経営課 電話 083-933-3350

~~取材を終えて~~ 名和田 伴江  
車から降りると「わぁ～、空気おいしい!」と、思わず感動するグループの皆さん。このむつみ地域は自然の恵みがいっぱいの典型的な中山間地域です。今回萩市吉部上(旧むつみ村)の麻生・三戸原集落を私たちグループ10名が訪ねました。

早速、むつみ総合事務所で集落協定代表の中尾さん、法人代表の山田さんにお話を伺いながら意見交換をさせていただきました。

協定は麻生・三戸原の2集落で結ばれ38人が参加されているそうです。(各集落はお米づくりが主体)また、隣接する他の集落と一緒に特定農業法人を平成18年に設立し、協定の9割の農家が加入されていると伺いました。年間の取組状況はパワーポイントを使って写真で紹介され様子が良く分かりました。

年に何回かの共同作業をして農道・水路の整備清掃、祭り広場の草刈り、共同機械の購入、景観作物の作付け、また市民農園や都市住民との交流イベント等、前向きで多彩な活動を展開されています。ここでも活力ある“むら”の活動に交付金が活かされ直接支払制度の果たす役割の大切さを知ることができました。急傾斜地での草刈りは大変なご苦労があると思います。高齢化による担い手の問題など課題も多いと思います。61歳の協定代表の中尾さん、明るく元気で力強いリーダーさんであり、パワーをいただきました。交流行事のあじさい祭りや収穫祭は手づくりのもてなしが人気を呼び、多くの方がこの地に集まって来られるそうです。その時に振るまわれるむつみの天然水で作る「こしひかり」はさぞかしおいしいだろうと推察します。

最後に、現地に向かい標高380mとい山頂から見る棚田は素晴らしい景観でした。農地の維持管理が良くできていて驚きました。一つでも荒廃地があると他の水田に害虫被害を及ぼすということも初めて知りました。この美しい棚田を守り続けていただきたいと参加者一同願うばかりです。この交流を通じてより多くの方が相互の理解を深め、消費者の視点で多くの学びが出来たと思います。協定の皆さんありがとうございました。